

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 10月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500622
法人名	特定非営利活動法人ひまわり
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地	太田市新井町544-1 (電話) 0276-45-5737

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年10月9日

【情報提供票より】(平成20年 9月 22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤	3人, 非常勤 7人 常勤換算5.7人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 400円/日 通院介助費400円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ

(4)利用者の概要(9月 22日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 83歳	最低	75歳	最高	92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	竹内医院・永倉歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地に位置し、周辺には神社や畑などがあり周辺環境に恵まれている。精神面の安定を図るため、散歩で出かける等一日一回は全員が戸外に外出するよう支援している。職員が優しく丁寧に対応しており、入居者は安心して穏やかな生活を送っている。職員と家族との信頼関係は良好に保たれている。管理者は職員の健康管理を優先すると共に、業務のポイントを押さえた指導を行い、職員間の人間関係も良好である。ホームの玄関は外階段を昇った2階にあり、生活を維持するためにも毎日のリハビリに取り組み、スクワットや大股歩行の練習で下肢筋力の低下を予防している。また、季節に合わせて目標を設定したレクリエーションを行い、ボーリングやバトミントン等のスポーツ活動や、計算、言葉並べなどの頭の体操も行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善点である「トイレ使用中の表示方法」について、職員全員で課題に取り組み改善策を見出して積極的に実行している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者が中心となり職員の意見を取り入れて作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>ホームが地域に対してできることを会議で検討し、神社の清掃を行うなど積極的に活動に取り入れている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームに意見箱を設置している。また、外部の苦情申立先を明記し、説明している。家族の来所時には意見や希望の聴取に努め、挙げられた要望は全職員で検討している。通院の介助は家族の役割を基本とし、外泊や外出は個々の家族状況に配慮し強制はしない等、具体性のある対応方法を見出して実行している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議で、日常的な神社の清掃、災害時の避難に関する地域の協力体制などの地域とホームの相互協力について具体的に話し合っている。地域行事に参加したり、散歩で顔見知りになった人たちと交流したり、地域住民との関係づくりに努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの在り方を職員が共通理解した上で、①毎日の散歩や外出を通して地域での暮らしを支援し、『地域に開かれた施設』を目指している。②『認知症を理解』し、否定しない介護を徹底している。③一人ひとりの『意思を尊重』し、日常的な意思決定をサポートする。という3つの理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝礼で唱和し、共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事内容に合わせて、個別又は集団で参加している。踊りの先生をしていた方が入居しているので、市の文化祭に全員で出掛けて踊りを見学している。また、ふれあいサロンやカラオケ大会等に参加したり、いつも散歩に行く近隣の神社を皆で清掃したり、地域の一員として住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員全員で確認し、改善課題である「トイレ使用中の表示方法」について前向きに話し合い、具体的な改善策を見出して意欲的に実行している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、市の職員、区長、民生委員、老人会、幼稚園長、消防署員等で運営推進会議が組織され、各団体のメンバーが交代で出席している。3ヶ月毎の開催を目安とし、ホームの見学と活動報告を行っている。ホームが地域にどんな協力ができるのか等、地域交流の方法について具体的に話し合い、ホームの活動に結び付けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に、今年から市職員が出席するようになり、市民と地域に貢献できるホーム運営を目指し、グループホームの介護に対する理解を求めて担当者と協議している。しかし、会議以外での交流がない。	○	日頃からホームの取り組みや現状、考え方等を伝えるような働きかけに期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に発行するホーム便りで、入居者の暮らしの様子とホーム行事及び職員の異動等を伝えている。健康状態や金銭管理等の個別事項については、電話連絡または家族の来園時に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の不満や苦情を運営に反映させる仕組みとして、ホームに意見箱を設置している。また、外部者への苦情連絡先を重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。申し込まれた意見や希望を協議し、個々の家族の協力体制に合わせた対応を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職や異動が行われる当日に、入居者と一緒に明るい雰囲気です別会を開催している。職を離れた後でも、ほとんどの職員が遊びに来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の段階に応じた外部研修を、計画的に受講できるように取り組んでいる。法人内では定期的に勉強会を開催し、様々な課題に全職員で取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会で開催する研修会や講演会、大会等に交代で参加し交流を図っている。交換研修で得たアイデアを職員会議で発表し、良い点を取り入れていく方向で協議し、実際に入居者全員にハタキやモップを持って掃除に参加して頂くようになり、活動量が向上するなどサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や数時間の滞在で、職員や他の入居者と一緒に時間を過ごして頂き、雰囲気馴染んで頂くように工夫している。また、ホーム側から訪問して納得していただくよう話し合い、入居の意思を確認している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	諺や料理等職員の知らないことを、入居者から沢山教えて頂いている。互いに支え合える「仲良し仲間」または「ファミリー」として生活を共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者一人ひとりを観察し、希望の把握に心がけている。また、職員間でロールプレイを行い、本人の意向を把握するよう努めている。	○	個々の家族や知人等からの情報を収集し、アセスメントシートを効果的に活用されたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の介護担当者と計画作成担当者が原案を作成し、全職員で協議して完成している。完成した介護計画は、家族の同意を得ている。	○	本人や家族等の意見を聴取しながら、一緒に介護計画を作成して頂きたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1年に1回、介護計画の見直しを行っている。また、状態に変化が生じた場合には随時見直しを行い、見直しをした介護計画は家族の同意を得ている。	○	本人や家族等の意見を聴取しながら、一緒に介護計画を作成して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の家族状況や協力体制に合わせて、家族と相談しながら外出や外泊、通院の支援を行っている。体調を崩して入院した入居者を見舞い洗濯を行ったり、退院後は通院しながら生活できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続できるよう支援している。新たな疾病に対しては、適切な医療機関を紹介し受診を勧めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームは外階段を昇った2階に開設している。活動性の低下を防ぐために毎日の散歩を取り入れているが、階段昇降が困難な状態になり当ホームでの生活が継続できなくなった場合には、特別養護老人ホームや老人保健施設への入所を勧めている。重度化した場合の方針は、入居後の早い時期から家族と相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは親近感のある敬語で接するように努め、排泄や整容の確認は小声で行うことに心がけている。個室やトイレのプライバシーには十分に配慮し、個人情報や記録物の管理は入居者の目の届かない場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や散歩などの大まかな日課以外の時間は、それぞれのペースで自由に過ごしている。気乗りのしない活動は、強制しないようにしている。買物など外出の希望があれば、職員が同行している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に好みのメニューを選択して貰い、食材を近所のスーパーに職員と一緒に買い物に出かけている。入居者は、それぞれの力に応じて調理や配膳、後片づけに参加している。誤嚥の無いように見守りに重点を置き、朝食以外は入居者の食事が済んだ後で職員が同じ物を食べるようにしている。食事の形態は、常食が基本で、おかゆ、刻み、ミキサー食にも対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒否される入居者が多いが、無理強いせずに翌日改めて声かけを行い、気持ちよく入浴ができるように支援している。稀に夜の入浴を希望する方もいるが、現状の勤務体制では困難であり対応していない。	○	入居者の習慣や希望にそった入浴方法の取り組みに期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の花づくりや雑巾縫いを職員が見守ったり、抹茶立てに必要な和菓子を一緒に買いに行ったり、茶事の相手をするなど一人ひとりの楽しみごとの支援をしている。テレビ観賞を好む入居者や週刊誌を買って読む入居者等其々の過ごし方を支援している。また、出来ることを見つけて役割を持って頂き、張り合いのある生活が送れるように支援している。猫を子供同然に可愛がっている入居者には、職員も一緒に猫の世話をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	精神面の安定を図るため、一日に一回は全員が戸外に出かけるように支援している。毎日散歩に出かけたり、個別の買い物に出かけたりしている。その他、年に7～8回の外食、年1回の映画鑑賞、ショッピングセンターへの買い物ツアー等、楽しく外出できるよう支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠することに依る弊害は十分に理解しているが、一人の入居者の身の安全を確保する為にやむなく玄関を施錠した期間があったが、その入居者が退居した後現在は、施錠していない。天気の良い日は、玄関ドアを開放したままにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震を想定し、年に2回昼夜の避難訓練を行っている。運営推進会議で地域に協力して欲しいことを、呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を個別に記録し、不足がある入居者には好みの物を提供して補充している。水分摂取を好まない入居者には、少量づつこまめに補給するように支援している。入浴後は、全員に水分摂取を支援している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅地に位置し、周辺には畑や神社などがあり、季節感のある環境に恵まれている。ホームでは沢山の花を咲かせ、共有空間には明るい陽射しが差し込んでいる。居間のテレビは時間を決めて観ており、大きなソファを設置して入居者同士が居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居前に使っていた馴染みの家具等を持って来て頂き、住み替えによるダメージを予防している。家族の宿泊も可能であり、また、夫婦部屋も設備し希望があれば対応している。		